

高密度播種苗栽培における 側条施薬による水稻病害虫の防除法

要約

高密度播種苗栽培において、育苗箱施用では防除効果が劣る病害虫もありましたが、側条施用では高い防除効果が認められました。

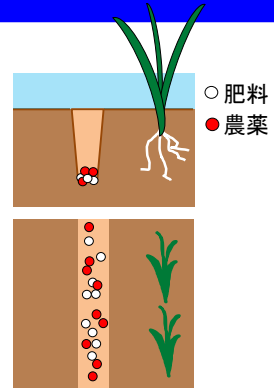
研究成果の概要

1. 背景・目的

高密度播種苗栽培は育苗箱の使用枚数を削減できる技術ですが、育苗箱施用剤を使用した場合には単位面積当たりの薬剤投入量も減少してしまうため、防除効果が低下する懸念がありました。そこで、箱施用剤を使用した場合の防除効果、移植時に薬剤を肥料と同じ場所に側条施用する防除方法を検討しました。



側条施薬アタッチメント（上）
処理位置のイメージ（右）



2. 内容

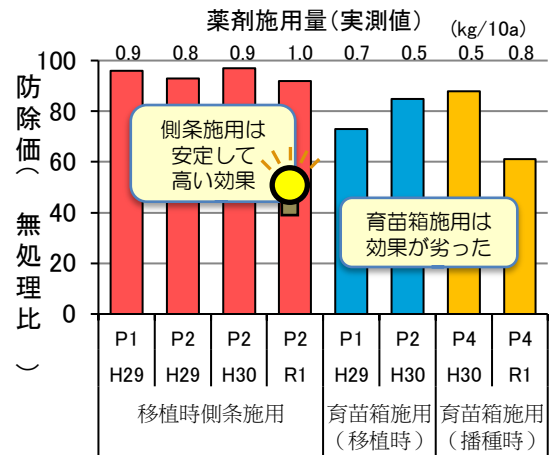
1) 育苗箱施用の防除効果

- ◆ プロベナゾール剤による育苗箱施用は、葉いもちの発生が多い場合、防除効果が劣る傾向が見られました。
- ◆ フィプロニル剤による育苗施用は、コバネイナゴでは、防除効果は低下しませんでした。

2) 側条施用の防除効果

- ◆ プロベナゾール、クロラントラニリプロール混合剤を10a当たり1kg側条施用することで、葉いもちおよびイネミズゾウムシ幼虫に対して、高い防除効果が認められました。
- ◆ なお、クロラントラニリプロール剤はイネミズゾウムシ成虫に対する防除効果は低いですが、水稻の生育に被害を及ぼす幼虫の発生を抑制することができました。

側条施薬は一定量の薬剤を必要な分だけ施用することができるので、効果の安定化および低コスト・省力化になります。



プロベナゾール剤の葉いもちに対する各施用法の効果
(注) P1~4: プロベナゾールを含む箱施用剤
移植時処理、播種時処理は50g/箱施用した。

クロラントラニリプロール剤の イネミズゾウムシ (幼虫) に対する効果

供試薬剤名	10株当たりの幼虫数 (7/15)					同左指数	薬害
	若齢	中齢	老齢	土菌	合計		
側条施用区 (クロラントラニリプロール剤)	0	0	0.5	0	0.5	1.5	-
無処理区	6.5	10	16.5	0	33	100	

(注) 播種量: 250g/箱、移植: R元年5月22日
側条施用: 薬量0.99kg/10a

幼虫には高い効果

注意事項

- ◆ 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用しましょう。
「農薬情報」 (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
「農薬登録情報提供システム」 (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)